

おやこ通信

第1号



暑くなってきましたね。病気も季節によって流行があります。夏に多い病気はといいますと・・・

<フル熱>

39～40度の高熱が4～5日続き、のどの痛みが強く、さらに、頭痛、吐き気、腹痛、下痢などを伴うこともあります。目が赤く、目やにがでるとい結膜炎の症状をとることもあります。「特効薬」はなく、症状をおさえる治療が中心です。体力をおとさないように回復するのを待ちます。

<ヘルパンギーナ>

夏の代表的なウイルス感染症がヘルパンギーナです。0～4才くらいの子どもの多く、高い熱が出ます。のどの入り口に左右対称に小さな口内炎ができる病気です。

<溶連菌感染症>

発熱、咽頭痛及び発疹（紅斑）です。突然の38℃以上の発熱と咽頭痛から始まり、1～2日遅れて発疹が出現したり、苺のような舌になることがあります。確定診断するために、のどをこすって細菌の検査を行います。治療は、抗生物質で、適切に治療を行えば、すぐによくなりますが、腎炎やリウマチ熱の予防のためには、10日間の服用が必要です。

<手足口病>

乳幼児、小児によく見られる疾患で、手のひら・足の裏・口の中の発疹と水疱を特徴とします（3カ所すべてに発疹が出るとは限りません）。かゆみを伴わないのが普通です。また、口腔内の痛みとそれによる食欲低下（おなかはずくの、痛みのため食べられない）がみられます。熱は出る人も出ない人もいます。ほとんどが、1週間から10日程度で自然に治ります。潜伏期間は、一般的に3日から6日です。手足口病に対する特別な治療法はありません。発熱・頭痛・口腔内の潰瘍の痛み等、症状に対する対症療法が中心です。

どの病気も口の中の痛みのために食事をとりにくくなります。
そんな時は食べやすいもの、飲みやすいものをあげてくださいね。
おかゆ・うどん・豆腐・アイスクリーム・ゼリー・ヨーグルト・プリン
牛乳・野菜ジュース・スープ（冷まして）などがいいですね。

